



# 2025年12月期 決算説明資料（概要版）

※2025年12月期 決算短信 補足資料

株式会社サイフューズ （証券コード：4892）

2026年 2月 13日

# 2025年12月期 業績ハイライト

## 業績

- 複数領域における開発成果や技術普及・需要に基づく収益拡大、及び生産性向上による収益向上により好循環傾向
- 将来の再生医療等製品の製品上市後の収益性を抜本的に高める事業基盤を整備したことにより、医療の持続可能性の確保に繋げ、中長期的な企業価値向上を図っていく素地が固まる

## 経営成績

- 売上高：230,999千円 営業利益：△828,179千円 当期純利益：△763,843千円

## 事業領域

### 1. 再生医療領域

【注力】当社再生医療等製品の製品上市へ向けたパイプライン開発及び事業化活動・提携等に注力

【進捗】主要パイプライン（末梢神経再生及び骨軟骨再生の3つのパイプライン）の着実な開発進展

- 2026年の治験開始に向け、製造及び臨床体制を整備

同種（他家）末梢神経再生：治験届提出、2026年1月治験開始

自家末梢・骨軟骨再生：治験届提出に向け準備進展

- 将来の社会実装や再生医療等製品の商業化を見据えた戦略的提携を締結（クラレ、千代田化工建設、ZACROS）

### 2. 創薬支援領域

【注力】「ヒト3Dミニ肝臓®」のマーケット拡大と、機能性細胞デバイス（FCD®）のラインナップ拡充に注力

【進捗】3D細胞製品「ヒト3Dミニ肝臓®」の販売体制強化により、市場浸透が加速。マーケティング活動を加速

### 3. デバイス領域

【注力】バイオ3Dプリンタを中心としたデバイス販売に加え、専用消耗品の継続供給によるベース収益の積み上げに注力

【進捗】治験開始に向けた製造環境整備等、再生医療等製品の生産技術開発を加速

## 協業・提携

- パートナー企業との共同開発等による製品製造環境整備や商業生産技術開発が進展
  - PHC株式会社：3D 細胞製品の商業化へ向けた新生産技術を開発（3/19：共同プレスリリース）
  - 株式会社クラレ：再生医療の産業化及び社会実装に向け、業務資本提携を締結（12/24：適時開示）

## その他

- 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）への参加等による情報発信、技術普及、新たな医療の啓蒙
- 学会発表 11 件、展示会等 9 件、メディア等活動 11 件

# 2025年12月期 決算概要（経営成績）

## 収益面

- 1. 強固な収益基盤の確立へ向けた売上高の着実な成長
- 2. 事業プラットフォームの活用により開発効率化と利益を改善
- 3. 商業化・量産化へ向けた戦略的提携の進展

### 損益計算書

（単位：千円）

勘定科目	2024年12月期	2025年12月期	増減率
売上高	54,446	230,999	+ 324.3%
売上原価	37,596	117,105	+ 211.5%
売上総利益	16,849	113,894	+ 576.0%
販管費合計	912,982	942,073	+ 3.2%
営業損失	△896,133	△828,179	—
営業外収益	46,866	108,771	+ 132.1%
営業外費用	20,480	41,894	+ 104.6%
経常損失	△869,747	△761,301	—
税引前当期純損失	△869,747	△761,301	—
法人税等	2,491	2,542	+ 2.0%
当期純損失	△872,238	△763,843	—

## 財務面

- 1. パイプラインバリュー拡大へ向けた資金調達を完了
- 2. 安定的な資金力（キャッシュポジション）を確保
- 3. 金融機関との連携強化による財務基盤の強化

### 貸借対照表

（単位：千円）

勘定科目	2024年12月期	2025年12月期
【流動資産】	3,240,117	3,934,469
現金及び預金	3,052,570	3,726,535
【固定資産】	277,884	331,557
資産の部合計	3,518,001	4,266,026
【流動負債】	648,595	866,063
【固定負債】	327,000	642,336
負債の部合計	975,595	1,508,399
【株主資本】	2,493,095	2,656,882
純資産の部合計	2,542,406	2,757,627
負債及び純資産合計	3,518,001	4,266,026

# 2025年12月期における注力ポイントと今後の成長戦略

## - 2025年12月期の位置づけ

### 成長期 ⇒ 拡大期 ⇒ 発展期

再生医療等製品の上市により収益が立ち上がるまでの間、バイオ3Dプリンタの販売や3D細胞製品の各種受託等、複数領域における事業収益を着実に積み上げ、将来の再生医療等製品の製造・販売へ向けた成長投資を進める



### 再生医療領域

新たな再生医療等製品の開発・販売

再生医療等製品



### 創薬支援領域

画期的な3D細胞製品の開発・販売  
及び各種受託

FCD製品



3D細胞製品  
の各種受託



### デバイス領域

バイオ3Dプリンタ及び  
培養周辺機器の開発・販売

バイオ3D  
プリンタ



関連消耗品  
及び周辺機器



今後の拡大期に向け、細胞製品及びデバイス製品による**安定的なベース収益**と、再生医療等製品の上市による**成長収益**を両輪とした、当社独自の自律的かつ安定的な収益モデルの確立を目指す。

# 再生医療領域：開発進捗サマリー

## 末梢神経再生及び骨軟骨再生の複数パイプラインの臨床開発が順調に進展、2026年治験開始

### ● 末梢神経再生

末梢神経を損傷・断裂をした患者さまへ

「細胞製神経導管」を移植することで、断裂した神経を再生し、感覚神経や運動神経を再生



#### 自家細胞製品開発

- 医師主導治験の良好な結果を受け、企業治験開始に向け、準備を進展  
協業パートナーである、京都大学、太陽ホールディングス及び太陽ファルマテックと共に再生医療等製品の製造承認取得に向けて産学官連携体制を強化及び商業生産を見据えた製造検証を開始

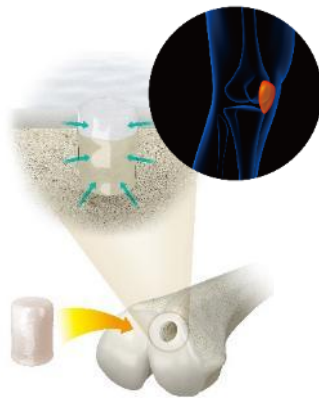
#### 同種（他家）細胞製品開発

- AMED事業「末梢神経損傷に対する同種臍帯由来間葉系細胞を用いた三次元神経導管移植の医師主導治験に関する研究開発」において京都大学、東京大学と共に同種細胞製品の開発を進展
  - 医師主導治験開始について、共同プレスリリース（2025年12月15日）、2026年1月- 治験開始
  - 同種末梢神経再生の非臨床POCに関する論文がアクセプト「PLOS One」「Cell Transplant , 2025」

### ● 骨軟骨再生

変形性膝関節症等により、損傷が骨まで進行し、骨軟骨の再生を必要とされる患者さまへ

骨軟骨損傷部へ「細胞製骨軟骨」を移植することで骨と軟骨の両組織を同時に再生

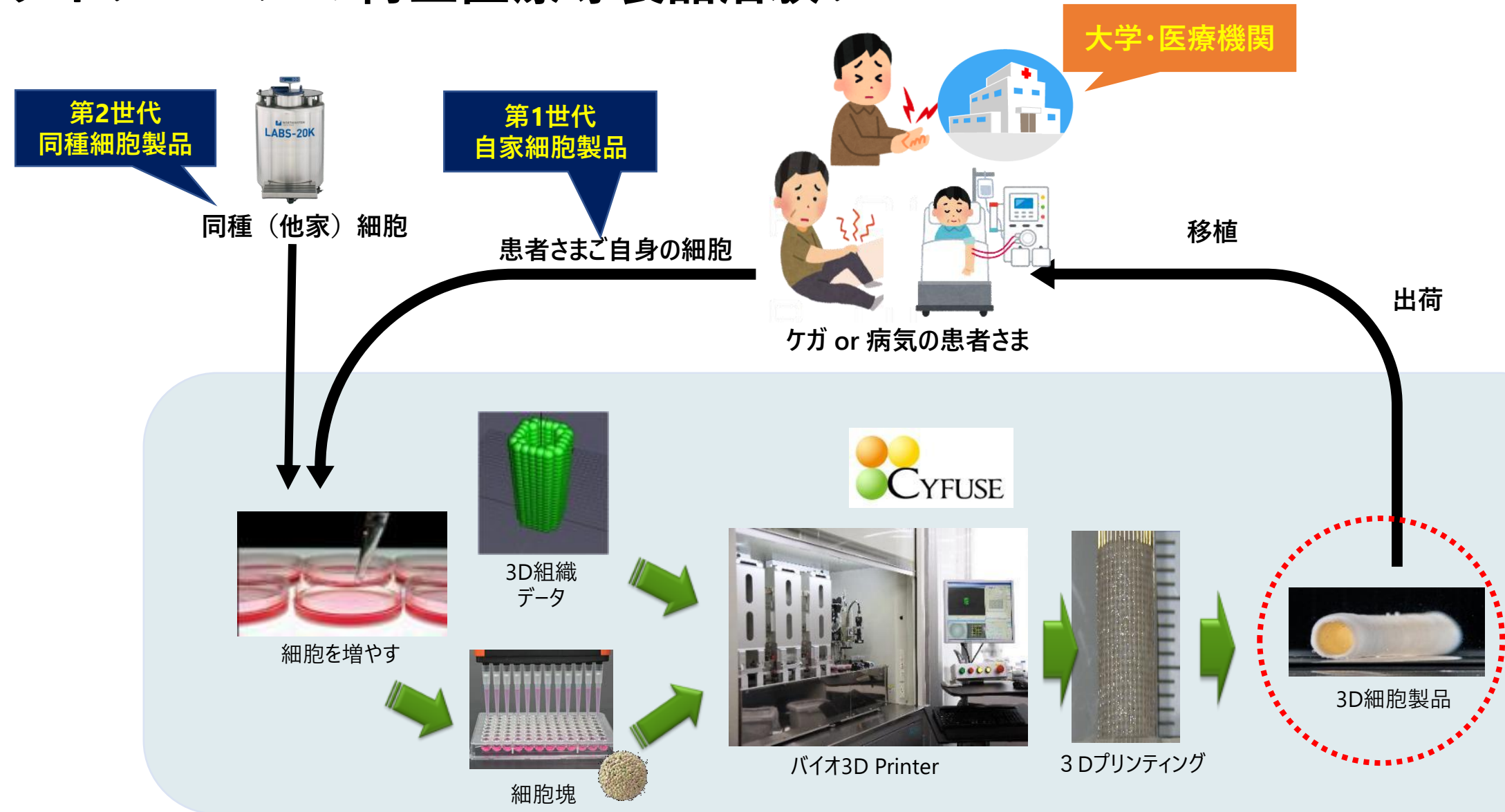


- AMED事業「バイオ3Dプリンター技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療」（代表機関：慶應義塾大学）において、医師主導治験開始に向けた準備を進展
- 2026年治験開始に向け、藤田医科大学及び慶應義塾大学病院と共に臨床・製造体制を整備倫理委員会等へ申請
- 殿町・羽田エリアにおける産学官コンソーシアム「CRem TONOHANE」発足  
日本発製品の再生医療の社会実装及びグローバル展開を産学官公にて目指す

 **CRem TONOHANE**  
<https://crem-tonohane.jp/>



# サイフューズの再生医療等製品治験フロー



# 創薬支援領域：開発進捗サマリー

## ■ 機能性細胞デバイス（FCD®）の製品ラインナップ拡充とマーケット拡大

- 知財戦略：ヒト3Dミニ肝臓®の商標登録、および健常モデルの米国特許権取得
- 製品販売：新製品「ヒト3Dミニ肝臓®/疾患モデル」を上市。健常モデルと合わせて「肝臓」シリーズのラインナップを充実<sup>1</sup>
- 製品開発：次期製品「ヒト3Dミニ腸管」の新技术開発について、展示会および公式サイトで発表<sup>2</sup>
- 販売体制：極東製薬工業・オリエンタル酵母工業と新たに代理店契約を締結し、計5社による強固な販売体制を構築
- 展示会：食品分野の展示会（FOOMA JAPAN2025）に初出展し、マーケット拡大<sup>3</sup>

### 1. ヒト3Dミニ肝臓のラインナップ拡充



### 2. ヒト3Dミニ腸管の新聞記事



食品化学新聞 2025年12月4日

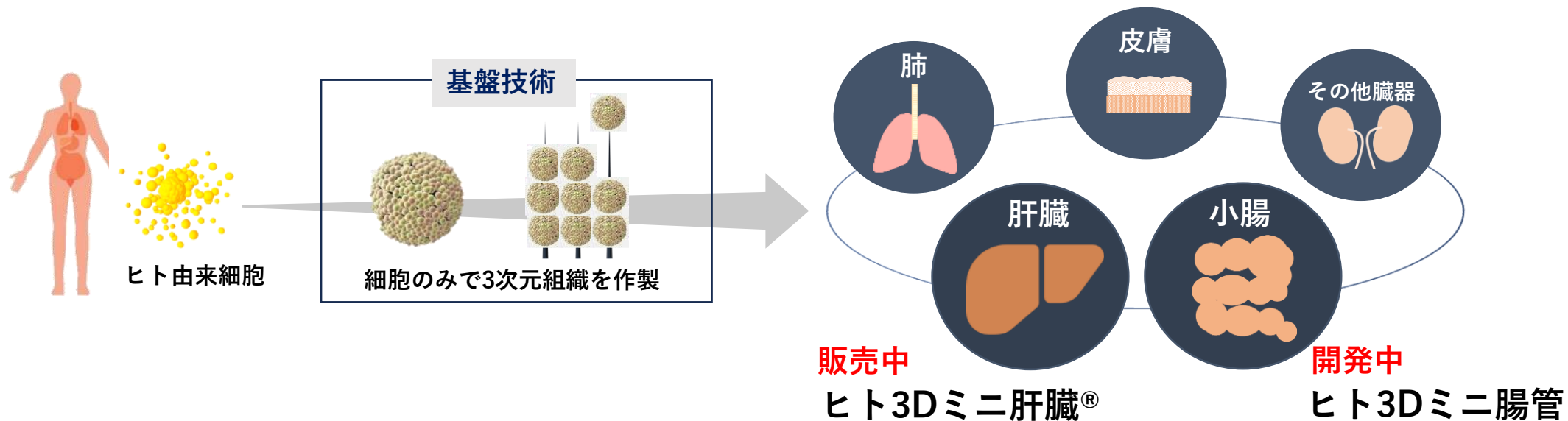
### 3. FOOMA JAPAN2025展示会に出展 (2025年6月ナラサキ産業共同出展)



# 創薬支援領域：開発段階から製品販売段階へ

機能性細胞デバイス(*Functional Cellular Device* ; FCD®)

- ✓ ヒトの臓器機能の一部を再現したミニ臓器（細胞製3次元組織）
- ✓ 新薬等の効果や安全性と有効性を、事前に予測できる評価ツール



顧客：ヘルスケア製品を開発する企業



医薬品



機能性食品



機能性材料



化粧品

顧客メリット

- ✓ 成功確率の向上
- ✓ 開発費用の削減
- ✓ 作用機序の解明
- ✓ 動物愛護への貢献



# デバイス領域：開発進捗サマリー

## ■ バイオ3Dプリンタ及び消耗品類の販売と次世代技術開発を加速

- 製品販売：複数細胞加工施設へのバイオ3Dプリンタ「Cystrix®」「S-PIKE®」の販売及び設置  
各製造機器類のバリデーション、カスタマーサポート拡大により売上増加
- 製品開発：パイプライン開発の順調な進展を受け、商業化生産を見据えた次世代技術開発を加速
- 販売体制：シスメックス社との連携による展示会出展等を通じて、販売体制及びマーケットを拡充



## ■ 次世代システム開発

- ✓ ものづくり・商業・サービス生産性向上促進にかかる補助事業を完了
- ✓ 生産性・品質の向上に向けた生産技術開発を加速
- ✓ 製造工程における各種システム化によるDXを促進



「生産技術強化」  
「研究開発支援」

「機械化・自動化の促進」  
「次世代の基盤技術開発」

「量産ライン技術の確立」  
「グローバル展開対応」

# デバイス領域：商業生産を見据えた開発段階へ

細胞製品の商業化を加速させる「次世代型製造プラットフォーム」の構築を目指します。

- デジタルツインを用いた情報管理技術により、場所に依存しない、属人的なスキルに縛られない革新的な製造環境の構築を目指します
- 機械化・自動化システムにより生産効率を高め、3D組織・臓器を世界中の社会へ安定的に届けるための「次世代型製造プラットフォーム」を創り上げます

## 次世代型製造プラットフォーム



# サイフューズならではの領域拡大・事業展開プラン

## 活動領域の拡大

国内での良好な成果を受け、  
米国・欧州・アジア地域を  
中心とした海外展開を進める

## 複数事業領域

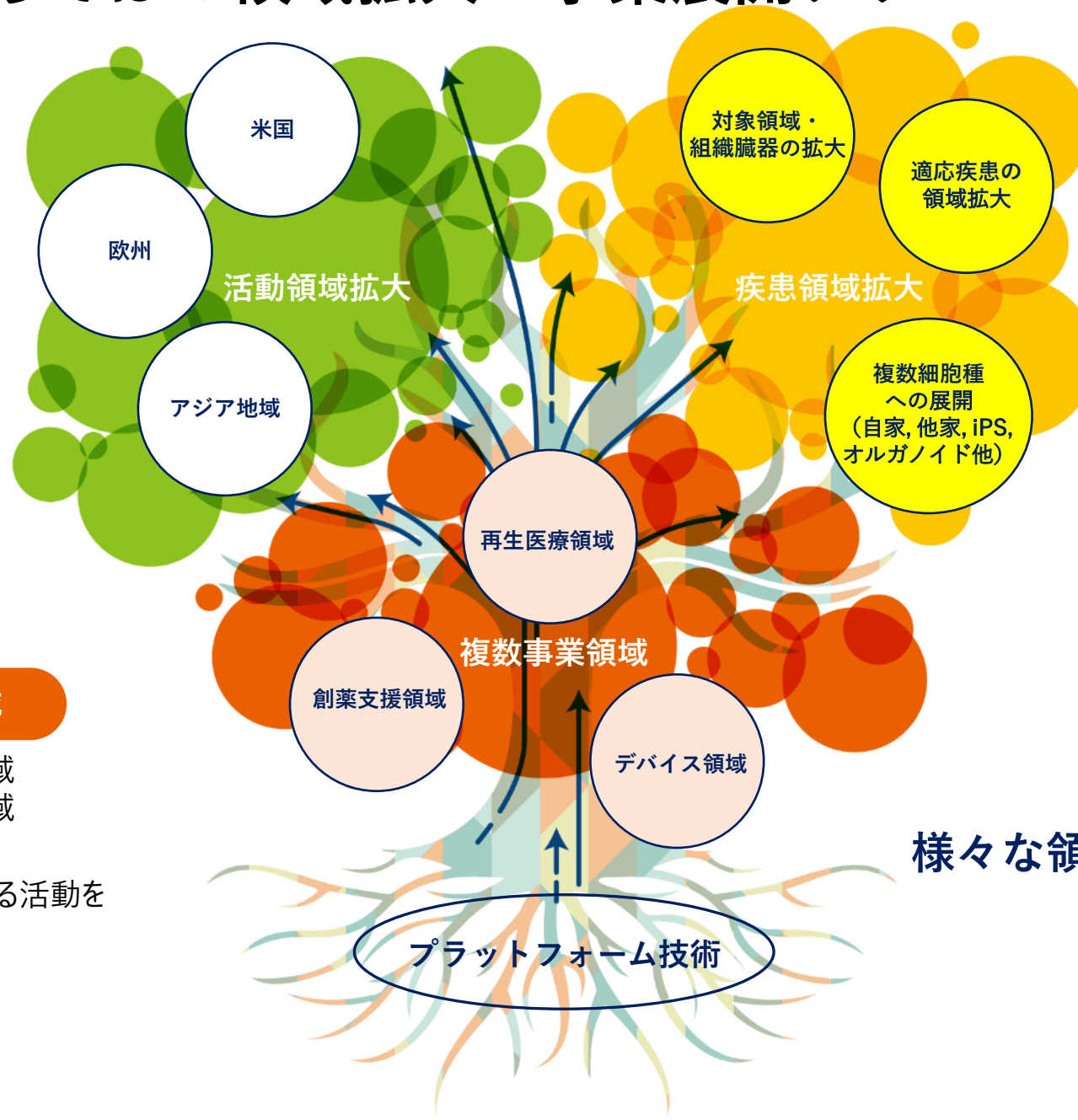
1. 再生医療領域
2. 創薬支援領域
3. デバイス領域

各事業領域における活動を  
さらに横展開

## 疾患領域の拡大

再生医療等製品の  
1.対象領域・組織臓器の拡大  
2.適応疾患の領域拡大  
3.複数細胞種への展開  
（自家,他家, iPS, オルガノイド他）  
を進める

様々な領域で進む事業の拡大展開





# CYTOPICs (2025年トピックス)

PR・メディア戦略やサステナビリティ活動、ステークホルダーとの共創等、サイフューズの企業価値向上に向けた様々な情報発信



## プレスリリース

再生医療等製品の主要パイプラインの開発進展に加え、新たな3D細胞製品の販売開始、福岡証券取引所への重複上場やパートナー企業との業務資本提携等、社会実装・事業基盤構築が進展。

医師主導治験の開始



新製品の販売開始



業務資本提携



福岡証券取引所  
重複上場



## メディア

研究開発・技術開発等の事業活動が様々なメディアに取り上げられ、製品上市に向けた企業・製品の認知向上とプレゼンス強化が加速。

TBSテレビ  
「情報7daysニュースキャスター」



日本テレビ  
「news zero」



日経CNBC  
「Market Breakthrough」



業界紙への記事掲載



## イベント

学会・展示会や講演等による情報発信や、教育プログラム等を通じた次世代への啓蒙活動など、幅広い層への情報提供を通じて、当社の起業価値が向上。

EXPO 2025 大阪・関西万博

ヘルスケアパビリオン出展



厚労省ブースでの特別講演



Cycamp (学生向け教育活動)



神奈川県知事のブース訪問





# Our Mission

Create hope  
from cells.

細胞から希望をつくる。

「バイオ3Dプリンティングの技術を用いて、細胞のみから成る立体的な組織・臓器を患者さまへお届けする」  
「細胞(Cyto)が融合(Fusion)する」ことを社名とする、当社『サイフューズ(Cyfuse)』は、  
2010年の創業以来「革新的な三次元細胞積層技術の実用化を通じて医療の飛躍的な進歩に貢献する」  
という企業理念のもと、これまでにない新しい「再生医療等製品」「3D細胞製品」を  
新しい治療法の選択肢として患者さまや医療機関にお届けすることで、  
新しい医療・社会の創出を目指す再生医療ベンチャーです。

# 本資料の取扱に関するお願い

- 本資料は、株式会社サイフューズ（以下「当社」といいます。）の投資家の皆様に対する情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 投資のご検討にあたっては、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料は投資家の皆様へ当社をご理解いただくため、正確性・公平性を期し慎重に作成されたものでありますが、当社の有価証券への投資判断にあたって必要となるすべての情報が含まれているものではないこと、また、本資料に記載されている情報の真実性、正確性または完全性について当社として保証するものではないことにつきご了承ください。
- 本資料には、当社の現在の見通し、予想、計画等を含む将来に関する記述が含まれておりますが、新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、様々な要素によって変動する可能性があります。
- 本資料の使用または内容、情報等に関して生じたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。
- 本資料の記載内容及び使用画像や写真・イラスト等について、当社の書面による事前の同意なしに、複製、複写、転載、転用等の二次利用を行うことを固く禁止します。

**本資料は決算短信の発表とともにその補足資料として2025年12月期決算説明（概要）をお示しするものであり、詳細につきましては「2025年12月期決算説明会資料」（2026年2月25日（水）開示予定）をご参照ください。**